



戦略的フォーカスと優れた実行力

2018年度第2四半期

2018年10月31日

クリストフ・ウェバー
社長CEO

アンドリュー・プランプ
チーフメディカル&
サイエンティフィックオフィサー

コスタ・サルウコス
チーフフィナンシャルオフィサー

岩崎 真人
ジャパンファーマビジネスユニット
プレジデント



Better Health, Brighter Future

Takeda Pharmaceutical Company Limited

重要な注意事項

留意事項

本通知において、「プレゼンテーション (presentation)」とは、本プレゼンテーションにおいて武田薬品工業株式会社 (以下、「武田薬品」) によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション (それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます。) は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。いかなる株式も本プレゼンテーションによって公開されておりません。本プレゼンテーションは、(投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく) 情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で (受領者に対して提供される追加情報と共に) 提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性がございます。特定されていない限り、本プレゼンテーションにおけるいかなる声明 (シナジーの予測の声明を含みます。) も、いかなる期間における業績予測又その見積もりを意図するものではなく、本プレゼンテーションにおけるいかなる声明も、現在又は将来の会計年度における武田薬品の収益又は1株あたりの収益が過去に公表された武田薬品の1株あたりの収益と必ずしも合致し、又はそれを超えることを意味すると解釈されてはなりません。武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあり得ます。同様に、「当社 (we, us及びour)」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあり得ます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあり得ます。

将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見積り、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。特に、本プレゼンテーションには、2018年事業年度における売上収益、Core Earnings、営業利益、税引前当期利益、親会社の所有者に帰属する当期利益、基本的1株当たり利益、研究開発費、無形資産償却費及び減損損失、収益/費用、並びに実質的な売上収益、実質的なCore Earnings及び実質的なCore EPSに関する情報を含む、武田薬品の財務及び事業業績に関する予想及び経営予測が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする (targets)」、「計画する (plans)」、「信じる (believes)」、「望む (hopes)」、「継続する (continues)」、「期待する (expects)」、「めざす (aims)」、「意図する (intends)」、「だろう (will)」、「かもしれない (may)」、「すべきであろう (should)」、「であろう (would)」、「することができた (could)」、「予想される (anticipates)」、「見込む (estimates)」、「予想する (projects)」などの用語又は同様の用語若しくはその否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。この書類における将来見通し情報は、現在当社が入手可能な情報に鑑みて行った当社の現在の前提及び理念に基づくものです。かかる将来見通し情報は、当社又は当社の役員による、将来の業績に関する保証を表すものではなく、既知及び未知のリスクと不確実性その他の要素を伴います。リスクと不確実性には、日本、米国及び世界中の一般的な経済条件を含む当社の事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、関連法規、製品開発計画の成功又は失敗、規制当局による判断とその時期、為替変動、市場で販売された製品又は製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念等、買収対象企業とのPMI (買収後の統合プロセス) が含まれますが、これらに限られません。これらにより、当社の実際の業績、経営結果、財務内容は、将来見通し情報において、明示又は暗示された将来の業績、経営結果、財務内容は、大きく異なる可能性があります。当社又は当社の役員は、この将来見通し情報において示された予想が結果的に正しいということを何ら保証するものではなく、実際の業績又は経営結果は予想と大きく異なることがあり得ます。本プレゼンテーションの受領者は、将来見通し情報に過度に依存するべきではありません。武田薬品は、本プレゼンテーションに含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指標とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想又は見積もりではありません。

医療情報

本プレゼンテーションには、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

2018年度の武田薬品の業績予想について

武田薬品は現在、Shire plcに関するオファー期間 (英国のCity Code on Takeovers and Mergers (以下、「コード」) において定義される期間をいいます。) にあります。コード第28条に基づき、武田薬品による2018年度のガイダンスに関する見解 (2018年度における売上収益、Core Earnings、営業利益、税引前当期利益、親会社の所有者に帰属する当期利益、基本的1株当たり利益、研究開発費、無形資産償却費及び減損損失、収益/費用、並びに実質的な売上収益、実質的なCore Earnings及び実質的なCore EPSに関する情報を含みます。) は、2018年度における業績予想 (以下「武田薬品業績予想」) を構成します。武田薬品業績予想に関する追加情報及び取締役による当該業績予想が有効なものであり、上掲の前提及び当社の会計方針に基づき適切に作成されている旨の確認につきましては、武田薬品の2019年3月期第2四半期決算短信の8ページをご参照ください。

戦略的フォーカスと優れた実行力がもたらした力強い上期実績

- 戦略的優先事項の着実な進捗



- 実質ベースはビジネスモメンタムと規律ある営業経費管理により力強く成長
売上収益 +4.2%、Core Earnings +31.8%、Core EPS +32.7%
Core Earningsの対売上収益比率は+510bps向上
- 財務ベースは事業等の売却とShire社買収提案関連費用が影響
売上収益 Δ 0.1%、営業利益 Δ 26.6%、EPS Δ 26.9%
- ベルケイドの上方修正、成長ドライバーのモメンタム、規律ある営業経費管理により、年間見通しを上方修正
- Shire社買収に向けて順調に進捗、統合計画を策定中

3

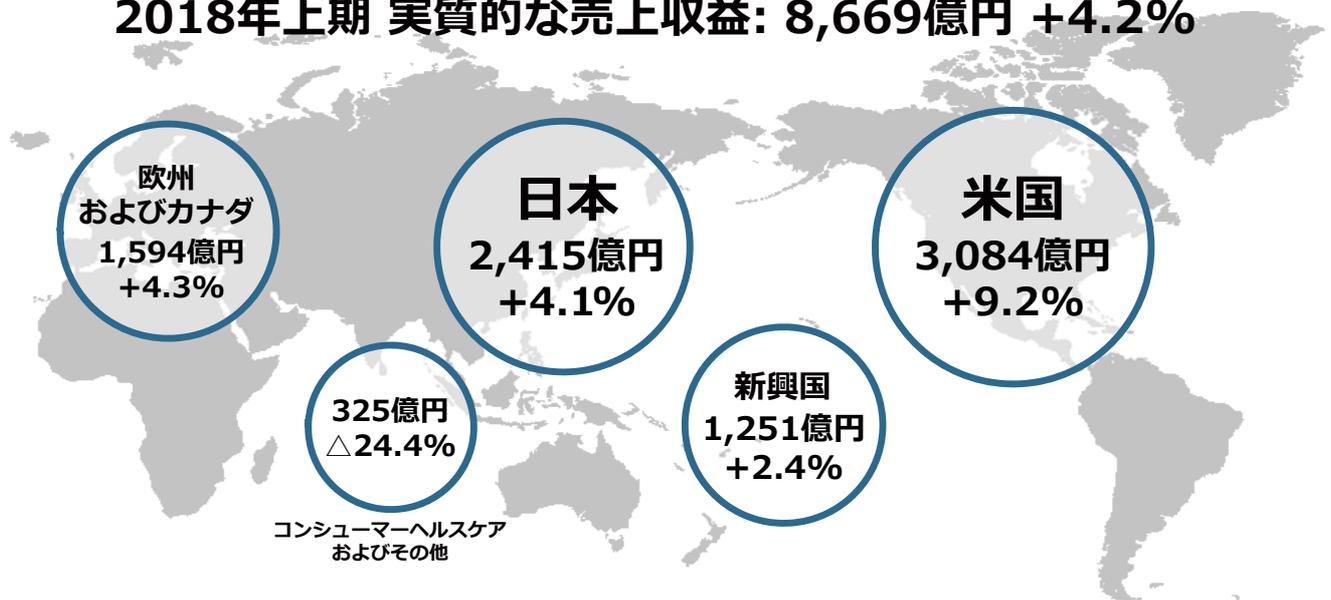
戦略的優先事項の着実な進捗

<h3>Grow Portfolio</h3>	<ul style="list-style-type: none"> • 実質的な売上収益はすべての地域にわたり増収+4.2%、成長ドライバー+9.8%が牽引 • 主力製品の力強い実績（例、エンティビオ+33.1%、ニンラーロ+38.0%） • タイジェニクス社の買収完了、Shire社の買収提案は計画通りに進捗 • ノン・コア事業であるブラジルのマルチラブ社と中国のテックプール社の売却完了
<h3>Strengthen Pipeline</h3>	<ul style="list-style-type: none"> • ALUNBRIGのALK陽性非小細胞肺がんのファーストライン治療 (ALTA-1L試験) の最初の間解解析データをWCLCにて発表：ALUNBRIGがクリゾチニブと比較し主要評価項目である無増悪生存期間 (PFS) を改善 (ハザード比=0.49) • アドセトリスのCD30発現PTCLを対象としたフロントライン治療(ECHELON-2試験)において、主要評価項目であるPFSを改善 (ハザード比=0.71)、全生存期間 (OS) の改善を含めすべての重要な副次評価項目の改善を達成 (ハザード比=0.66) • 2018年4月以降、7つの新規候補物質がPh-1にステージアップ
<h3>Boost Profitability</h3>	<ul style="list-style-type: none"> • グローバル経費削減イニシアチブの業務への完全な組み入れ (KPI、インセンティブ、予算、システム) • 実質的なCEは+31.8% • 対売上収益比率は+510bps、そのうち3分の2は営業経費比率の改善が牽引 • 実質的なCore EPSは+32.7% • ベルケイドの上方修正、成長ドライバーのモメンタム、規律ある営業経費管理により、年間見通しを上方修正

4

実質的な売上収益はすべての地域にわたり増収

2018年上期 実質的な売上収益: 8,669億円 +4.2%



5

成長ドライバーは力強い+9.8%の売上成長

2018年度上期 実質的な売上収益の成長	
成長ドライバー	消化器系疾患 +18.7%
	オンコロジー +6.8%
	ニューロサイエンス +15.6%
	新興国事業 +2.4%
	合計 +9.8%

タケダ連結売上の成長ドライバー比率63%

6

主力製品の力強い売上実績

実質的な売上収益
億円 対前年同期

製品カテゴリー	製品名	売上 (億円)	対前年同期 (%)	注釈
消化器系疾患	Entyvio vedolizumab	1,252	+33.1%	<ul style="list-style-type: none"> 米国での生物学的製剤の新規患者の獲得 (潰瘍性大腸炎: 24.9%、クローン病: 13.6%) 2019年度中にMATでの売上高30億米ドルの見通しに対し、予定通り進捗
	Takecab	272	+22.1%	<ul style="list-style-type: none"> 処方量の伸長により4月に実施された薬価改定によるマイナス影響 (16.1%) をオフセットし堅調に推移 中国やブラジルを始め新興国にて新薬承認申請を提出
オンコロジー	NINLARO (ixazomib) capsules	285	+38.0%	<ul style="list-style-type: none"> 60カ国以上で承認取得済み、引き続きグローバル展開を実施 自家造血幹細胞移植後の維持療法における試験で主要評価項目を達成、ASH (米国血液学会) にてデータを発表
	Adcetris brentuximab vedotin	219	+15.7%	<ul style="list-style-type: none"> 上市国において、堅調に成長 ホジキンリンパ腫フロントライン適応の承認 (日本)、承認審査中 (欧州)
	ICLUSIG (ponatinib) tablets 45mg, 15mg	136	+32.6%	<ul style="list-style-type: none"> 当社がこれまで築いてきた血液がん領域における基盤を活用した米国での成長 NCCNガイドラインにPh+ALLの導入療法について記載される、現在本効能でPh-3試験を実施中
	ALUNBRIG BRIGATINIB 80mg tablets	22	+179.1% (2017年5月上市)	<ul style="list-style-type: none"> 米国での承認効能であるクリゾチニブ治療後の情報活動を強化し、さらなる市場浸透を図る クリゾチニブ治療後のALK陽性非小細胞肺癌に対する欧州医薬品評価委員会 (CHMP) からの承認推奨の見解、欧州で発売準備中
ニューロサイエンス	Tintellix vortioxetine	260	+17.5%	<ul style="list-style-type: none"> 大うつ病患者において本剤が治療に伴う性功能障害の改善についてEscitalopramに優るというデータを、本剤の米国添付文書に追記することについてFDAより承認取得 日本で得られた良好なPh-3試験結果に基づき、成人の大うつ病性障害治療薬として厚生労働省に申請

MAT: 移動通年合計、Ph+ALL: フィラデルフィア染色体陽性の急性リンパ性白血病、NCCN: National Comprehensive Cancer Network

ALUNBRIG ALTA-1L試験の結果より、セカンドラインにおいて確立したベストインクラスとしての有望なプロファイルを確認

クリゾチニブ治療後のセカンドラインにおいてベストインクラスの有効性

- 全体の集団における最長の無増悪生存期間(PFS)中央値: 16.7ヶ月
- ベースラインで脳転移を有する集団における最長のPFS中央値: 18.4ヶ月
- 最長の全生存期間: 34ヶ月

ALTA-1Lにおいて、短期追跡期間(11ヶ月; 275例中99例)にもかかわらず、独立評価委員会による最初の間解析において有効性が実証された

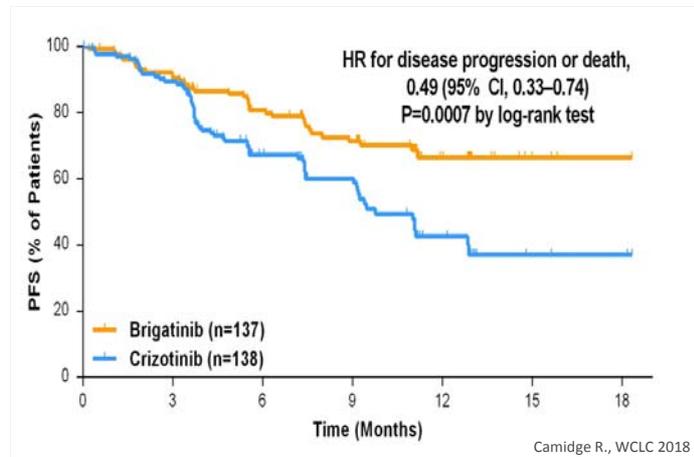
- 病状進行または死亡リスクが51%以上低下
 - ハザード比=0.49 (95%信頼区間: 0.33-0.74, p=0.0007)
- ベースラインで脳転移を有する患者で頭蓋内病変における病状進行または死亡リスクが80%低下
 - ハザード比=0.20 (95%信頼区間: 0.09-0.46, p<0.0001)
- クリゾチニブに優る有効性が速やかに認められ、PFS曲線は試験開始約3ヶ月後から明確に分離
- 他の試験結果も踏まえ、本剤の有効性プロファイルは長期フォローアップでは、改善してゆくことが期待される

ALTA-1Lの安全性プロファイルはセカンドラインの実績と比較し改善

- ALK阻害剤による既存治療歴がないため、早期発症の肺の有害事象が6%から3%に低下した可能性がある
- 最初の間解析での副作用の発現率は、現在米国添付文書に記載されている内容とおおむね一致

利便性が最も高い服用レジメンは患者さんの服薬コンプライアンスを向上

- 食事摂取の有無に関わらず、1日1回1錠投与レジメンがFDAより承認されている唯一のALK阻害剤



PFS: Progression Free Survival; HR: Hazard Ratio; CI: Confidence Interval

2018年度の重要な研究開発マイルストーン

疾患領域	開発品	予定されるイベント		
オンコロジー (がん)	ADCETRIS	ホジキンリンパ腫 (フロントライン適応) 欧州承認 (H2) ホジキンリンパ腫 (フロントライン適応) 日本承認 (H2)	✓	
	ALUNBRIG	ALTA-1L ALK陽性非小細胞肺癌 (フロントライン適応) 中間解析 (H1) ALK陽性非小細胞肺癌 (セカンドライン適応) 欧州承認 (H2)	✓	
	Cabozantinib	肝細胞がん 日本ピボタル試験開始 (H2)	✓	
	ICLUSIG	フィラデルフィア染色体陽性の急性リンパ性白血病グローバルピボタル試験開始 (H1)	✓	
	NINLARO	初発の多発性骨髄腫 初回の中間解析 (H1) 自家造血幹細胞移植後の多発性骨髄腫の維持療法 初回の中間解析 (H1)	✓	2019年度の2回目の中間解析まで試験を継続
	Pevonedistat	高リスク骨髄異形成症候群/慢性骨髄単球性白血病/ 低プラスト急性骨髄性白血病 Ph-2最終解析 (H2)	→	2019年度に最終解析を延期、現在実施中のPh-2試験に基づき申請の可能性があり
	TAK-788	非小細胞肺癌 申請が可能なPh-2試験の患者への投与開始 (H2)		
消化器系疾患	ENTYVIO	クローン病 日本申請 (H1)	✓	
		潰瘍性大腸炎 日本承認 (H1)	✓	
		潰瘍性大腸炎 皮下投与製剤申請(H2)	○	主要評価項目と副次評価項目を達成、米欧申請を計画
	TAK-954	経腸栄養不耐性 Ph-2b試験開始 (H1) 術後麻痺性イレウス Ph-2b試験開始 (H2)	✓	
TAK-906	胃不全麻痺のPh-2b試験開始 (H2)			
ニューロサイエンス (神経精神疾患)	TRINTELLIX	大うつ病 日本申請 (H2) 治療に起因する性機能障害 (TESD) の米国添付文書のアップデート (H2)	✓	
	TAK-925	ナルコレプシー患者におけるブルーフォブコンセプト (H2)	✓	
ワクチン	TAK-003	デングウイルスワクチン Ph-3主要解析 (H2)		
	TAK-214	ノロウイルスワクチン Ph-2b最終解析(成人) (H1)	✓	

表中の研究開発マイルストーンは一部であり、包括的なものではありません。タイムラインは現在想定しているものであり、変更の可能性があります。略語については略語用語集をご参照ください。

9

実質ベースの力強い上期実績、財務ベースのEPS成長は2017年度の一時的収益と2018年度のShire社買収提案関連費用が影響

- 財務ベースのEPSは△26.9%、事業等の売却とShire社買収提案関連費用が影響**
 - 売上収益△0.1%、為替影響(△1.0pp) と事業等の売却影響(△3.2pp)が成長ドライバーの伸長を相殺
 - 営業利益△26.6%、主に2017年度の2つの大きな一時的収益*と2018年度のShire社買収提案関連費用が影響、これらの要因を除くと営業利益は+64.5%

*和光純薬の株式売却益1,063億円とテバ社との合弁会社に追加売却した製品にかかる収益168億円
- 実質ベースのCore EPSは+32.7%、ビジネスモメンタムと規律ある営業経費管理により成長**
 - 実質的な売上収益+4.2%、成長ドライバー +9.8%が牽引
 - 実質的なCE+31.8%、対売上収益比率は+510bps、うち、3分の2は営業経費比率の改善が貢献
- 営業フリー・キャッシュ・フローは△29.7%、テバ合併会社からのキャッシュ影響 (2017年度)**

2018年度上期 対前年同期

財務ベース		2018年度上期 Shire社買収提案 関連費用除き	2017年度上期 和光純薬株式売却益と テバJV製品追加売却 2018年度上期 Shire社買収提案 関連費用除き	実質ベース	
売上収益	△0.1%	△0.1%	+1.9%	売上収益	+4.2%
営業利益	△26.6%	△21.9%	+64.5%	Core Earnings	+31.8%
EPS	△26.9%	△17.4%	+64.2%	Core EPS	+32.7%

10

財務ベースの上期PL増減は、2017年度の一時的収益と2018年度のShire社買収提案関連費用が影響

2018年度上期 損益計算書（財務ベース）

(億円)	2017年度上期	2018年度上期 Shire社買収提案 関連費用込み	対前年同期	Shire社買収提案 関連費用	2018年度上期 Shire社買収提案 関連費用除き	対前年同期
売上収益	8,814	8,806	△0.1%	-	8,806	△0.1%
Core Earnings	1,871	2,120	+13.3%	-	2,120	+13.3%
営業利益	2,343	1,720	△26.6%	△111	1,830	△21.9%
当期利益	1,728	1,267	△26.7%	△165	1,431	△17.2%
EPS	221円	162円	△26.9%	△21円	183円	△17.4%
円/ドル	111円	110円	△1.5%		110円	△1.5%
円/ユーロ	126円	130円	+3.2%		130円	+3.2%

11

実質ベースの上期PL増減は、力強いビジネスモメンタムと規律ある営業経費管理を反映

2018年度上期 損益計算書（実質ベース）

(億円)	2017年度上期	2018年度上期	対前年同期
売上収益	8,323	8,669	+4.2%
売上総利益	5,973	6,382	+6.8%
対売上収益比率	71.8%	73.6%	+1.9pp
営業経費	△4,365	△4,262	△2.4%
対売上収益比率	△52.4%	△49.2%	+3.3pp
Core Earnings	1,608	2,120	+31.8%
対売上収益比率	19.3%	24.5%	+5.1pp
Core 当期利益	1,261	1,673	+32.7%
Core EPS	161円	214円	+32.7%

12

営業フリー・キャッシュ・フローは△29.7%、2017年度のテバ合併会社からの長期収載品追加売却にかかるキャッシュ影響を受ける

2018年度上期 キャッシュ・フロー計算書

(億円)	2017年度 上期	2018年度 上期	対前年同期	
当期利益	1,727	1,265	△462	△26.7%
減価償却費、償却費及び減損損失	842	787	△55	
運転資本増減 (△は増加)	△ 456	△ 664	△208	
法人税等の支払額	△ 39	△ 188	△150	
その他*	△ 566	△ 20	+546	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,508	1,178	△329	△21.9%
有形固定資産の取得と売却**	△ 360	△ 373	△14	
無形資産の取得***	△ 303	△ 211	+92	
営業フリー・キャッシュ・フロー	846	594	△251	△29.7%

- 不動産と投資有価証券の売却により、さらに442億円のキャッシュを創出
- ノン・コア事業であるテックプール社とマルチラブ社の売却により、さらに272億円のキャッシュを創出
- 当第2四半期末の純有利子負債/EBITDA倍率は1.7倍、前年度末の1.8倍、前々年度末の2.7倍から低下

次の項目は上記のキャッシュ・フロー計算書から控除しています。
 * (2017年度上期) エスクロー口座からユニファーム社への支払いに伴い発生した収入162億円 (投資活動CFの同額の支出も控除)
 ** (2017年度上期) 東京・品川のTSタワーの売却収入319億円
 (2018年度上期) 土地・建物等の売却収入60億円 (主に大阪・十三の工場の一部土地・建物)
 *** (2017年度上期) 将来ロイヤリティ支払いにかかる権利を買い戻した支払い166億円

13

グローバル経費削減イニシアチブの業務への完全な組み入れ

- 実質的な営業経費は対前年同期2.4%減少、2018年度のターゲットに対して前倒しで進捗
- 実質的なCore Earningsの対売上収益比率向上のうち、営業経費減少による貢献は3分の2 (510bpsのうち330bp)
- コストパッケージの経費はZBB(Zero Based Budgeting)で策定した予算ターゲットに対して6.7%削減
- ZBBによる予算ターゲットをすべてのマネジメントのKPIに組み込み

14

ベルケイドの上方修正、成長ドライバーのモメンタム、規律ある営業経費管理により、2018年度公表予想を上方修正

Shire社買収提案関連費用を除く

	2018年度公表予想 (億円、対前年度増減%)	
	前回公表予想 2018年5月14日	今回公表予想 2018年10月31日
売上収益	17,370 △1.9%	 17,500 △1.2%
営業利益	2,010 △16.9%	 2,800 +15.8%
EPS	178円 △25.7%	 263円 +9.8%
1株当たり年間配当金	180円	180円

- 今回公表予想には、当第2四半期までに発生した、当社によるShire社買収提案に起因する関連費用（税引前当期利益影響：198億円、当期利益影響：165億円）を控除し、当該関連費用の年間の予想値を含めておりません。また、当年度中にShire社の買収が完了した場合に見込まれる同社の損益も予想値に含めておりません。
- 当年度の当該関連費用の一部は、400億円から600億円を見込んでおります。これには、Shire社の買収完了の時期に因り、発生額が相応に変動するShire社統合費用、利息費用、その他の金融費用は含まれておりません。

15

2018年度修正公表予想（財務ベース）対前年度実績

Shire社買収提案関連費用を除く

2018年度公表予想（財務ベース） 対前年度実績

(億円)	2017年度 実績	2018年度 今回公表予想	対前年度	
売上収益	17,705	17,500	△205	△1.2%
研究開発費	△3,254	△3,200	+54	△1.7%
Core Earnings	3,225	3,300	+75	+2.3%
無形資産償却費および減損損失	△1,221	△1,080	+141	△11.6%
その他の営業収益／費用	414	580	+166	+40.0%
営業利益	2,418	2,800	+382	+15.8%
税引前当期利益	2,172	2,650	+478	+22.0%
当期利益	1,869	2,060	+191	+10.2%
EPS	239円	263円	+24円	+9.8%
円/ドル	111円	110円	△1円	△1.0%
円/ユーロ	129円	130円	+1円	+0.5%

増減率に対する為替と事業等の売却の修正影響

売上収益 △1.2%	
・ 為替影響	約△1.6pp
・ 事業等の売却影響	約△3.0pp
Core Earnings +2.3%	
・ 為替影響	約△5.0pp
・ 事業等の売却影響	約△8.0pp

修正主要項目 (億円)

	2017年度	2018年度
製品等に係る無形資産償却費	△1,261	△960
製品等に係る減損損失	40	△120
その他の営業収益	1,694	1,080
・ 和光純薬の株式売却益	1,063	—
・ 不動産売却益	188	800
・ 長期収載品の事業譲渡益	275	45
・ テックプール社の株式売却益	—	184
その他の営業費用	△1,266	△500
・ 事業構造再編費用	△447	△280
・ 為替換算調整の実現に係る損失	△417	—

今回公表予想には、当社によるShire社買収提案に起因する関連費用の年間の予想値を含めておりません。

16

2018年度修正公表予想（財務ベース）対前回公表予想

Shire社買収提案関連費用を除く

2018年度公表予想（財務ベース） 対前回公表予想

(億円)	前回公表予想	今回公表予想	増減	
	2018年5月14日	2018年10月31日		
売上収益	17,370	17,500	+130	+0.7%
研究開発費	△3,110	△3,200	△90	+2.9%
Core Earnings	3,095	3,300	+205	+6.6%
無形資産償却費および減損損失	△1,080	△1,080	-	-
その他の営業収益/費用	△5	580	+585	NA
営業利益	2,010	2,800	+790	+39.3%
税引前当期利益	1,830	2,650	+820	+44.8%
当期利益	1,390	2,060	+670	+48.2%
EPS	178 円	263 円	+85 円	+47.7%
円/ドル	108 円	110 円	+2 円	+1.5%
円/ユーロ	133 円	130 円	△3 円	△2.3%

- ヘルケイド上方修正+355、成長ドライバーのモメンタム
- テックプール社売却に伴う連結除外影響 △158
- 為替影響△135
- ヘルケイド上方修正、成長ドライバーのモメンタム、規律ある営業経費管理
- 研究開発費の増加△90
- 為替影響△45
- 不動産の売却額見込の上方修正+245
- テックプール社の株式売却益+184
- 事業構造再編費用の減少+125
- 課税所得ミックスの改善と不確実性に係る未払法人所得税見直しによる税率の低下+1.8pp

今回公表予想には、当社によるShire社買収提案に起因する関連費用の年間の予想値を含めておりません。

17

2018年度のマネジメントガイダンスを上方修正

Shire社買収提案関連費用を除く

2018年度マネジメントガイダンス（対前年度増減%）

	前回公表ガイダンス 2018年5月14日	今回公表ガイダンス 2018年10月31日
	実質的な売上収益	1桁台前半
実質的なCore Earnings	1桁台後半	 10%台後半
実質的なCore EPS	10%台前半	 20%台半ば

- 米国のヘルケイドについては、治療上の同等性が認められない、静脈投与と皮下投与が可能な競合品一つが、2019年3月に市場に追加参入してくることを業績予想上の前提としており、前回公表ガイダンスから355億円の上修正。[グローバル売上収益：2017年度 1,296億円、2018年度 1,110億円]*
- 実質的なCore Earningsの対売上収益比率は、前年度から、+100-200bpsの範囲のうち、200bpsに近い比率の向上を見込む。
- 今回公表ガイダンスには、当社によるShire社買収提案に起因する関連費用の年間の予想値を含めておりません。また、当年度中にShire社の買収が完了した場合に見込まれる同社の損益も予想値に含めておりません。

* 2018年度の計画レートを適用した同一為替換算ベース

18

変革がもたらした力強い上期実績

- 戦略的優先事項であるGrow Portfolio、Strengthen PipelineおよびBoost Profitabilityの着実な進捗
- 実質ベースはビジネスモメンタムと規律ある営業経費管理により力強く成長
売上収益 +4.2%、Core Earnings +31.8%、Core EPS +32.7%
Core Earningsの対売上収益比率は+510bps向上
- 財務ベースは事業等の売却とShire社買収提案関連費用が影響
売上収益 Δ 0.1%、営業利益 Δ 26.6%、EPS Δ 26.9%
営業利益は、前年度の和光純薬とテバ社との合併会社にかかる一時的収益、当年度のShire社買収提案関連費用除きで+64.5%
- ベルケイドの上方修正、成長ドライバーのモメンタム、規律ある営業経費管理により、年間見通しを上方修正
- Shire社買収に向けて順調に進捗、統合計画を策定中

19

堅実な戦略実行によりShire社買収・統合に向けた基盤を構築

- 引き続き利益率の向上に取り組み、堅実にファンダメンタルズを強化
 - グローバル経費削減イニシアチブの実行と改善
 - 実質的なCEの対売上収益比率の向上にコミット：+100-200bps/年
- 投資適格信用格付の維持
 - 早期のレバレッジの改善にフォーカス
 - ノン・コア資産の売却
- 確立された配当方針の維持を企図
 - 1株当たり年間配当金180円

20

APPENDIX



Coreと「実質的な成長」の定義

当社は、事業の計画策定および業績評価において、「**実質的な成長**」(Underlying Growth)の概念を採用しております。

「**実質的な成長**」は、当期と前年同期(四半期もしくは年間)の業績を共通の基準で比較するものであり、マネジメントによる業績評価に使用されています。これら共通の基準で比較される業績は、為替レートを一定として、事業等の売却影響およびその他の非定期的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない(ノン・コア)事象による影響を控除し算定されます。当社は、この「**実質的な成長**」が、事業活動のパフォーマンスを表す共通の基準を提供するため、投資家に有用であると考え、「**Underlying Revenue Growth**」(実質的な売上収益の成長)、「**Underlying Core Earnings Growth**」(実質的なCore Earningsの成長)および「**Underlying Core EPS Growth**」(実質的なCore EPSの成長)を重要な財務指標としています。

なお、本指標は、国際会計基準(IFRS)に準拠したものではありません。

実質的な売上収益は、為替レートを一定として、財務ベースの売上収益に、報告期間における非定期的な事象に基づく影響および事業等の売却影響を調整して計算します。

Core Earningsは、営業利益から、製品に係る無形資産償却費及び減損損失、その他の営業収益およびその他の営業費用を控除して算出します。さらに、重要性のある、その他の非定期的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない(ノン・コア)事象による影響を調整します。これらには、企業買収に係る会計処理の影響、主な訴訟費用、事業構造再編費用、自然災害による影響、政府による法令変更の措置の影響などが含まれます。

実質的なCore Earningsは、為替レートを一定として、Core Earningsに、報告期間における事業等の売却影響を調整して計算します。

実質的なCore EPSの算定にあたっては、為替レートを一定として、純利益から、事業等の売却影響、およびCore Earningsの算出において控除された項目と営業利益以下の各科目のうち、重要性のある、非定期的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない(ノン・コア)事象による影響を調整します。これらには、条件付対価に係る公正価値変動(時間的価値の変動を含む)影響などが含まれます。さらに、これらの調整項目に係る税金影響を控除した後、比較年度末の自社株式控除後の発行済株式総数で除して算定します。

成長ドライバーの実質的な売上収益

(億円)	2017年度		2018年度		対前年同期	
	上期	上期	上期	上期		
エンティビオ	940	1,252	+312	+33.1%		
タケキャブ	223	272	+49	+22.1%		
デクスラント	318	341	+22	+7.0%		
ALOFISEL	-	0	+0	NA		
アミティーザ	165	156	△9	△5.4%		
ランソプラゾール	177	144	△33	△18.6%		
消化器系疾患*	1,824	2,165	+342	+18.7%		
ニンラーロ	207	285	+79	+38.0%		
アイクルシグ	103	136	+33	+32.6%		
アドセトリス	189	219	+30	+15.7%		
リュープロレリン	535	553	+17	+3.2%		
ALUNBRIG	8	22	+14	NA		
ベクティビックス	97	105	+8	+8.5%		
ベルケイド	680	622	△58	△8.5%		
オンコロジー	1,819	1,942	+123	+6.8%		
トリンテリックス	221	260	+39	+17.5%		
ロゼレム	83	99	+16	+19.3%		
アジレクト	-	3	+3	NA		
レミニール	82	84	+2	+2.7%		
コバキソン	4	5	+1	+14.9%		
ニューロサイエンス	390	451	+61	+15.6%		

* パントプラゾールは消化器系疾患の売上収益に含めていません。パントプラゾールは新興国における主力製品であることから4つ目の成長ドライバーである「新興国事業」の売上収益に含めています。

(注) 2018年度より、個別製品売上のグローバルな管理体系にあわせて、国内の一部製品について、値引・割引等を個別製品毎に売上から控除して表示しています。比較を容易にするため、2017年度の数値についても組み替えて表示しています。当該組み替えは連結財務諸表に影響を与えるものではなく、また前期数値の修正を意味するものではありません。

23

損益計算書 (財務ベース) 2018年度上期

(億円)	2017年度		2018年度		対前年同期	
	上期	上期	上期	上期		
売上収益	8,814	8,806	△8	△ 0.1%		
売上総利益	6,387	6,493	+106	+ 1.7%		
対売上収益比率	72.5%	73.7%		+1.3pp		
販売費及び一般管理費	△2,973	△2,938	+35	△ 1.2%		
研究開発費	△1,551	△1,514	+37	△ 2.4%		
非正常項目	8	79				
Core Earnings	1,871	2,120	+249	+ 13.3%		
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	△569	△483	+86	△ 15.1%		
その他の営業収益/費用	1,049	162	△887	△ 84.6%		
非正常項目 (振り戻し)	△8	△79				
営業利益	2,343	1,720	△624	△ 26.6%		
対売上収益比率	26.6%	19.5%		△7.1pp		
金融収益/費用	△19	△152	△133	NA		
持分法による投資損益	5	40	+35	NA		
税引前当期利益	2,330	1,608	△722	△ 31.0%		
法人所得税費用	△603	△343	+260	△ 43.1%		
非支配持分	1	2	+0	+ 21.8%		
当期利益	1,728	1,267	△461	△ 26.7%		
EPS	221 円	162 円	△60 円	△ 26.9%		

24

損益計算書（財務ベース） 2018年度第2四半期

(億円)	2017年度		2018年度		対前年同期	
	第2四半期		第2四半期			
売上収益	4,332	4,308	△24	△0.6%		
売上総利益	3,113	3,200	+87	+2.8%		
対売上収益比率	71.9%	74.3%		+2.4pp		
販売費及び一般管理費	△1,514	△1,488	+26	△1.7%		
研究開発費	△794	△795	△1	+0.1%		
非正常項目	2	33				
Core Earnings	807	951	+144	+17.9%		
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	△244	△243	+1	△0.5%		
その他の営業収益/費用	△167	55	+223	NA		
非正常項目（振り戻し）	△2	△33				
営業利益	394	731	+337	+85.6%		
対売上収益比率	9.1%	17.0%		+7.9pp		
金融収益/費用	△54	△66	△12	+23.0%		
持分法による投資損益	8	5	△3	△39.0%		
税引前当期利益	347	669	+322	+92.6%		
法人所得税費用	△71	△185	△114	NA		
非支配持分	3	0	△3	△95.3%		
当期利益	280	484	+204	+72.8%		
EPS	36円	62円	+26円	+72.0%		

25

財務ベース売上収益から実質的な売上収益への調整

(億円)	第2四半期				上期			
	2017年度	2018年度	対前年同期		2017年度	2018年度	対前年同期	
売上収益	4,332	4,308	△24	△0.6%	8,814	8,806	△8	△0.1%
為替影響*	△95	△28	+67	+1.6pp	△146	△58	+88	+1.0pp
為替影響*除き売上収益	4,237	4,280	+43	+1.0%	8,668	8,748	+80	+0.9%
事業等の売却影響**	△62	△26	+36	+0.9pp	△345	△79	+266	+3.2pp
テバJVへの長期取藏品	-	-	-	-	△168	-	+168	+2.0pp
TAK-935	-	-	-	-	△35	-	+35	+0.4pp
マルチラブ社	△11	-	+11	+0.3pp	△24	△11	+13	+0.2pp
テックプール社	△34	△26	+9	+0.2pp	△86	△66	+20	+0.2pp
その他	△16	-	+16	+0.4pp	△31	△2	+29	+0.4pp
実質的な売上収益	4,175	4,254	+78	+1.9%	8,323	8,669	+346	+4.2%

* 為替影響は、2017年度および2018年度に、2018年度の計画レート（1ドル=105円、1ユーロ=130円）を適用して算出しています。

** 事業等の売却影響の2017年度には、主に2017年5月にテバ社との合併会社に売却した長期取藏品にかかる一時的な売却益を含めています。

また、2018年度には、主にマルチラブ社とテックプール社の売上を含めています。

(注) 財務ベースからCoreベース、Coreベースから実質ベースへの調整については、ウェブサイト掲載のエクセル調整表をご参照ください。

26

営業利益から実質的なCore Earningsへの調整

(億円)	第2四半期				上期			
	2017年度	2018年度	対前年同期		2017年度	2018年度	対前年同期	
営業利益	394	731	+337	+ 85.6%	2,343	1,720	△624	△ 26.6%
無形資産の償却費および減損損失	244	243	△1	△0.4pp	569	483	△86	△3.9pp
Shire社買収提案統合費用（その他の営業費用）	-	31	+31	+11.0pp	-	32	+32	+1.4pp
その他の営業収益/費用	167	△87	△254	△89.2pp	△1,049	△193	+856	+39.1pp
非正常項目（Shire社買収提案一般管理費）	-	33	+33	+11.7pp	-	79	+79	+3.6pp
非正常項目（その他）	2	-	△2	△0.8pp	8	-	△8	△0.3pp
Core Earnings	807	951	+144	+ 17.9%	1,871	2,120	+249	+ 13.3%
為替影響*	△35	2	+36	+5.5pp	△56	△1	+55	+3.9pp
事業等の売却影響**	4	△0	△4	△0.6pp	△206	1	+208	+14.6pp
テナビVへの長期取藏品	0	-	△0	△0.0pp	△168	-	+168	+11.8pp
TAK-935	-	-	-	-	△35	-	+35	+2.5pp
マルチラブ社	2	△1	△2	△0.3pp	4	△1	△5	△0.4pp
テックプール社	6	1	△5	△0.8pp	△3	5	+7	+0.5pp
その他	△3	-	+3	+0.5pp	△5	△2	+4	+0.3pp
実質的な Core Earnings	777	953	+176	+ 22.7%	1,608	2,120	+512	+ 31.8%

* 為替影響は、2017年度および2018年度に、2018年度の計画レート（1ドル=105円、1ユーロ=130円）を適用して算出しています。

** 事業等の売却影響の2017年度には、主に2017年5月にテナビ社との合併会社に売却した長期取藏品にかかる一時的な売却益を含めています。

また、2018年度には、主にマルチラブ社とテックプール社の損益を含めています。

(注) 財務ベースからCoreベース、Coreベースから実質ベースへの調整については、ウェブサイト掲載のエクセル調整表をご参照ください。

27

当期利益から実質的なCore当期利益への調整

(億円)	第2四半期				上期			
	2017年度	2018年度	対前年同期		2017年度	2018年度	対前年同期	
当期利益	280	484	+204	+ 72.8%	1,728	1,267	△461	△ 26.7%
EPS	36 円	62 円	+26 円	+ 72.0%	221 円	162 円	△60 円	△ 26.9%
無形資産の償却費および減損損失	182	184	+2	+1.0pp	401	367	△34	△2.1pp
Shire社買収提案統合費用（その他の営業費用）	-	25	+25	+10.8pp	-	25	+25	+1.5pp
その他の営業収益/費用	136	△97	△233	△102.5pp	△700	△172	+528	+32.8pp
Shire社買収提案一般管理費	-	36	+36	+15.7pp	-	79	+79	+4.9pp
Shire社買収提案金融費用	-	19	+19	+8.5pp	-	61	+61	+3.8pp
その他の非正常項目の調整	15	24	+8	+3.7pp	△14	26	+40	+2.5pp
Core当期利益	614	675	+61	+ 9.9%	1,415	1,652	+237	+ 16.7%
為替影響*	△10	4	+14	+2.4pp	△14	14	+28	+2.6pp
事業等の売却影響**	4	7	+3	+0.4pp	△141	6	+147	+13.4pp
実質的なCore当期利益	608	686	+78	+ 12.8%	1,261	1,673	+412	+ 32.7%
実質的なCore EPS	78 円	88 円	+10 円	+ 12.8%	161 円	214 円	+ 53 円	+ 32.7%

* 為替影響は、2017年度および2018年度に、2018年度の計画レート（1ドル=105円、1ユーロ=130円）を適用して算出しています。

** 事業等の売却影響の2017年度には、主に2017年5月にテナビ社との合併会社に売却した長期取藏品にかかる一時的な売却益を含めています。

また、2018年度には、主にマルチラブ社とテックプール社の損益を含めています。

(注) 財務ベースからCoreベース、Coreベースから実質ベースへの調整については、ウェブサイト掲載のエクセル調整表をご参照ください。

28

損益計算書（実質ベース）2018年度上期

(億円)	2017年度 上期	2018年度 上期	対前年同期	
実質的な売上収益	8,323	8,669	+346	+ 4.2%
実質的な売上総利益	5,973	6,382	+409	+ 6.8%
対売上収益比率	71.8%	73.6%		+1.9pp
販売費及び一般管理費	△2,872	△2,792	+80	△ 2.8%
研究開発費	△1,493	△1,470	+23	△ 1.5%
実質的なCore Earnings	1,608	2,120	+512	+ 31.8%
対売上収益比率	19.3%	24.5%		+5.1pp
金融収益/費用	△34	△28	+6	△ 18.6%
持分法による投資損益	27	59	+32	NA
実質的なCore税引前当期利益	1,601	2,150	+549	+ 34.3%
法人所得税費用	△338	△476	△138	+ 40.9%
非支配持分	△2	△2	+0	△ 20.5%
実質的なCore当期利益	1,261	1,673	+412	+ 32.7%
実質的なCore EPS	161 円	214 円	+53 円	+ 32.7%

29

損益計算書（実質ベース）2018年度第2四半期

(億円)	2017年度 第2四半期	2018年度 第2四半期	対前年同期	
実質的な売上収益	4,175	4,254	+78	+ 1.9%
実質的な売上総利益	3,003	3,149	+147	+ 4.9%
対売上収益比率	71.9%	74.0%		+2.1pp
販売費及び一般管理費	△1,462	△1,430	+32	△ 2.2%
研究開発費	△764	△767	△3	+ 0.4%
実質的なCore Earnings	777	953	+176	+ 22.7%
対売上収益比率	18.6%	22.4%		+3.8pp
金融収益/費用	△25	△15	+10	△ 38.7%
持分法による投資損益	19	14	△5	△ 27.9%
実質的なCore税引前当期利益	771	951	+181	+ 23.4%
法人所得税費用	△162	△265	△103	+ 63.5%
非支配持分	△1	△1	△0	+ 9.9%
実質的なCore当期利益	608	686	+78	+ 12.8%
実質的なCore EPS	78 円	88 円	+10 円	+ 12.8%

30

純有利子負債/EBITDA倍率は1.7倍に低下、 ノン・コア資産の売却により714億円のキャッシュを創出

(億円)	2017年度		2018年度	
	上期	上期	対前年同期	
営業フリー・キャッシュ・フロー	846	594	△251	△29.7%
和光純薬株式会社売却	845	-		
テックブール社及びマルチラブ社株式会社売却	-	272	} 714	
その他投資有価証券売却*	143	382		
不動産の売却*	319	60		
配当金	△710	△714		
ブリッジ・タームローン借入枠	-	△154		
その他	△329	△214		
現金の増減額 (△は減少)	1,114	226	△889	△79.8%

* 2018年度売却目標: 合計 約1,100億円

	2017年度		2018年度	
	第4四半期末	第2四半期末	対前年度末	
有利子負債	△9,857	△10,005	△149	+1.5%
純有利子負債	△6,911	△6,835	+77	△1.1%
有利子負債/EBITDA倍率	2.6 x	2.5 x	△0.1	
純有利子負債/EBITDA倍率	1.8 x	1.7 x	△0.1	

31

2018年度マネジメントガイダンスの2017年度修正ベースライン

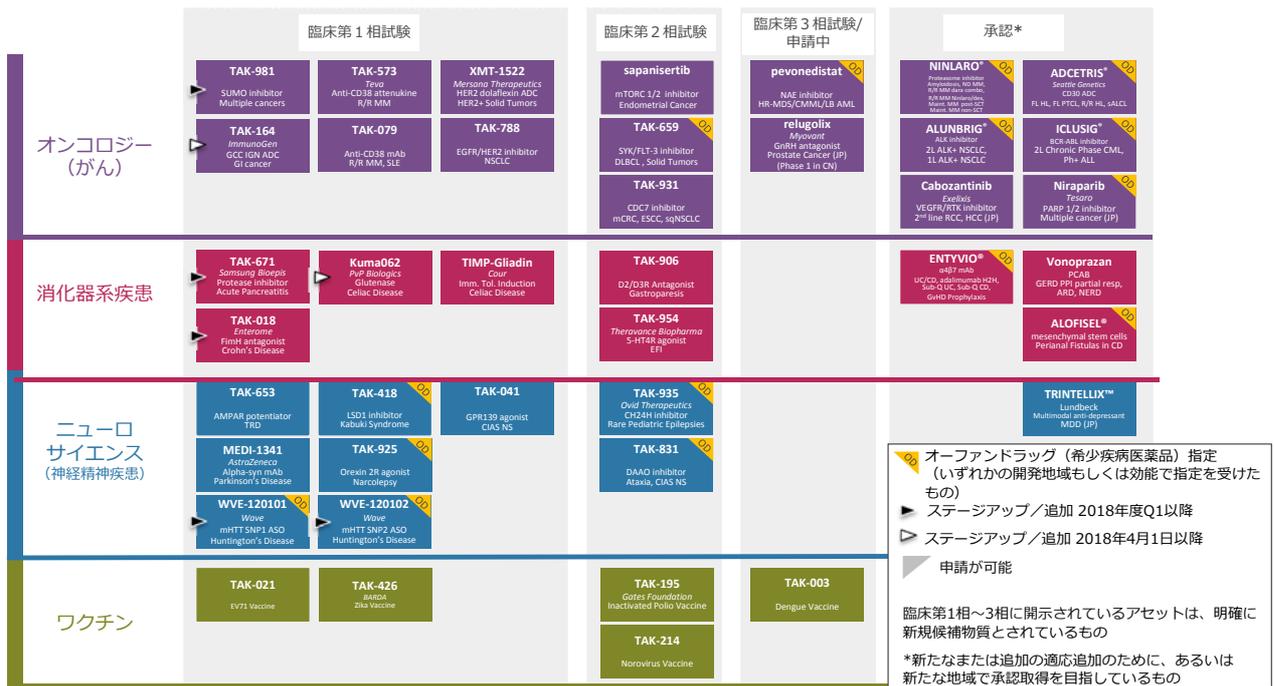
(億円)	2017年度
売上収益	17,705
為替影響	△378
事業等の売却影響	△591
実質的な売上収益	16,737
営業利益	2,418
無形資産償却費および減損損失	+1,221
その他の営業収益	△1,694
その他の営業費用	+1,266
非定常項目	+14
Core Earnings	3,225
為替影響	△121
事業等の売却影響	△268
実質的なCore Earnings	2,836
対売上収益比率	16.9%
実質的なCore EPS (円)	269

(注)

2018年度の発生事実によっては、2017年度ベースラインを再計算する可能性があります。
実質的な成長のマネジメントガイダンスは、2018年度の計画レートを適用して算出しています。
(1ドル=105円、1ユーロ=130円など)

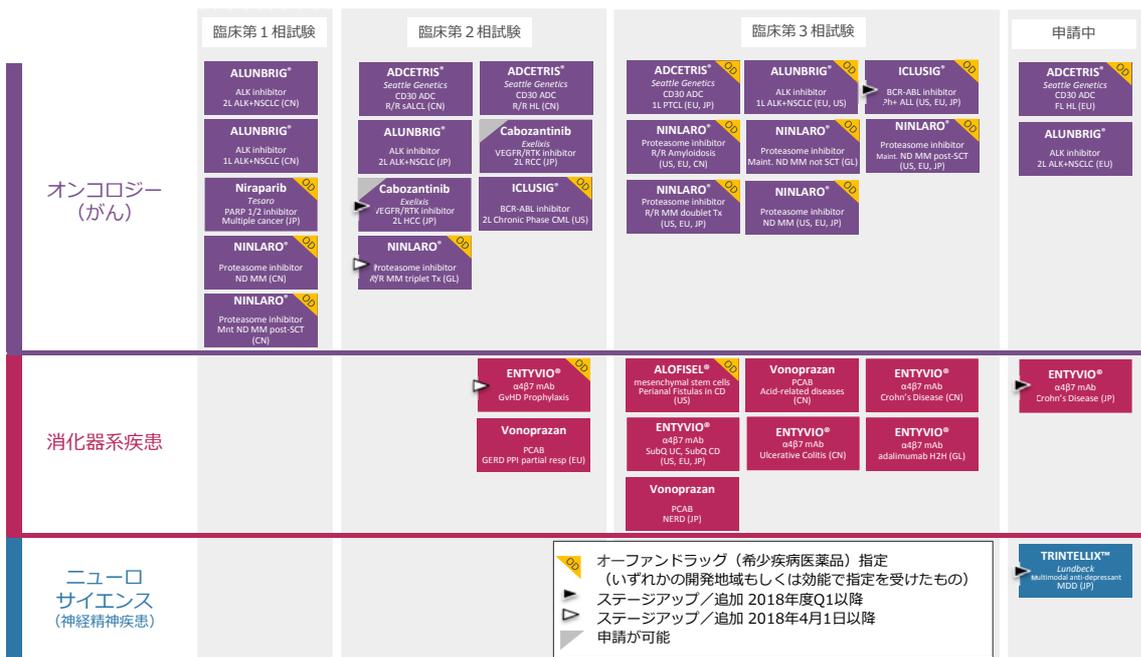
32

革新性の高い早期開発パイプラインへの投資と既発売品の価値最大化



2018年10月31日現在のパイプライン。地域の略語: GL = global (USA, Europe, Japan, China) 略語については略語用語集をご参照ください。

ライフサイクルマネジメントによりプログラムの価値を最大化



2018年10月31日現在のパイプライン。地域の略語: GL = global (USA, Europe, Japan, China) 略語については略語用語集をご参照ください。

略語用語集

AD	Alzheimer's disease (アルツハイマー病)	EE H	erosive esophagitis healing (びらん性食道炎の治療)	LCM	lifecycle management (ライフ・サイクル・マネジメント)	RCC	renal cell cancer (腎細胞がん)
ADC	antibody drug conjugate (抗体薬物複合体)	EE M	erosive esophagitis maintenance (びらん性食道炎の再発予防)	mAb	monoclonal antibodies (モノクローナル抗体)	RTK	receptor tyrosine kinase (受容体チロシンキナーゼ)
ADHD	attention deficit hyperactivity disorder (注意欠陥多動性障害)	EF1	enteral feeding intolerance (経腸栄養不耐性)	MAOB	monoamine oxidase B (モノアミン酸化酵素B)	SALCL	systemic anaplastic large cell lymphoma (全身性未分化大細胞リンパ腫)
ALK	anaplastic lymphoma kinase (未分化リンパ腫キナーゼ)	EGFR	epidermal growth factor receptor (上皮増殖因子受容体)	MLD	metachromatic leukodystrophy (異染色性白質シストロフィー)	SBS	short bowel syndrome (短腸症候群)
ALS	amyotrophic lateral sclerosis (筋萎縮性側索硬化症)	EOE	eosinophilic esophagitis (好酸球性食道炎)	NAE	NEDD8 activating enzyme (NEDD8活性化酵素)	SC	subcutaneous formulation (皮下投与製剤)
AML	acute myeloid leukemia (急性骨髄性白血病)	ESCC	esophageal squamous-cell carcinoma (食道扁平上皮がん)	NASH	non-alcoholic steatohepatitis (非アルコール性脂肪性肝炎)	SCT	stem cell transplant (幹細胞移植)
AMR	antibody mediated rejection (抗体関連型拒絶反応)	FL	front line (フロントライン適応)	ND	newly diagnosed (新たに診断された)	SCZ	schizophrenia (統合失調症)
ASCT	autologous stem cell transplant (自家幹細胞移植)	FLT-3	FMS-like tyrosine kinase 3 (FMS様チロシンキナーゼ3)	NDA	new drug application (新薬承認申請)	SLE	systemic lupus erythematosus (全身性エリテマトーデス)
ARD	acid-related diseases (酸関連疾患)	FS1	first subject in (最初の患者登録)	Neg	negative (陰性)	sq	squamous (扁平上皮)
BTK	Bruton's tyrosine kinase (ブルトン型チロシンキナーゼ)	GCC	guanylyl cyclase C (グアニルシクラーゼC)	NERD	non-erosive reflux disease (非びらん性胃食道逆流症)	SR	steroid refractory (ステロイド抵抗性)
BBB	blood brain barrier (血液脳関門)	GERD	gastroesophageal reflux disease (胃食道逆流症)	NF	new formulation (新規剤型)	SR-GvHD	steroid refractory acute graft vs host disease (ステロイド抵抗性急性移植片対宿主病)
BOS	budesonide oral solution (ブデソニド経口懸濁液)	GI	gastrointestinal (胃腸)	NK	natural killer (ナチュラルキラー)	STING	stimulator of interferon genes (インターフェロン誘発子刺激因子)
CAR-T	Chimeric antigen receptor-T (次世代型キメラ抗原受容体発現T細胞)	GNRH	gonadotropin-releasing hormone (ゴナドトロピン放出ホルモン)	NME	new molecular entity (新規標的物質)	SUMO	small ubiquitin-related modifier (低分子ユビキチン標的因子)
CD	Crohn's disease (クローン病)	GU	gastric ulcer (胃潰瘍)	NSCLC	non-small cell lung cancer (非小細胞肺癌)	SYK	spleen tyrosine kinase (脾臓チロシンキナーゼ)
CHAW1	congenital hemophilia A with inhibitors (インヒビター保有先天性血友病A)	GVHD	graft versus host disease (移植片対宿主病)	NSCT	non stem cell transplant (非幹細胞移植)	TESD	treatment emergent sexual dysfunction (治療に起因する性機能障害)
CIAS	cognitive impairment associated with schizophrenia (統合失調症に伴う認知障害)	HAE	hereditary angioedema (遺伝性血管浮腫)	NS	negative symptoms (陰性症状)		
CIC	chronic idiopathic constipation (慢性特発性便秘)	H2H	head to head (直接比較)	OIC	opioid induced constipation (オピオイド誘発性便秘)		
CIDP	chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy (慢性炎症性脱髄性多発神経炎)	HCC	hepatocellular carcinoma (肝細胞がん)	ORR	overall response rate (全奏効率)		
CML	chronic myeloid leukemia (慢性骨髄性白血病)	HemA	hemophilia A (血友病A)	PARP	poly (ADP-ribose) polymerase (ポリADPリボースポリメラーゼ)		
CMML	chronic myelomonocytic leukemia (慢性骨髄単球性白血病)	HER2	human epidermal growth factor receptor 2 (ヒト上皮成長因子受容体2)	PBS	phosphate buffered saline (リン緩衝生理食塩水)		
CSF	cerebral spine fluid (脳脊髄液)	HL	Hodgkin's lymphoma (ホジキンリンパ腫)	PCAB	potassium competitive acid blocker (カリウムイオン競合型アシッドブロッカー)		
CNS	central nervous system (中枢神経系)	HR MDS	high risk myelodysplastic syndromes (高リスク骨髄異形成症候群)	PFIC	progressive familial intrahepatic cholestasis (進行性家族性肝内胆汁淤積)		
CRL	complete response letter (審査完了報告通知)	IBD	inflammatory bowel disease (炎症性腸疾患)	Ph+ ALL	Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia (フィラデルフィア染色体陽性ヒト急性リンパ性白血病)		
CTCL	cutaneous T Cell Lymphoma (皮膚T細胞性リンパ腫)	IBS-C	irritable bowel syndrome with constipation (過敏性腸症候群便秘型)	PID	primary immunodeficiency (原発性免疫不全)		
CTTP	congenital thrombotic thrombocytopenic purpura (先天性血栓性血小板減少性紫斑病)	IND	investigational new drug (治験薬)	PPI	proton pump inhibitor (プロトンポンプ阻害薬)		
DAAO	D-amino acid oxidase (D-アミノ酸酸化酵素)	I/O	immuno-oncology (がん免疫治療)	PK	pharmacokinetics (薬物動態)		
DED	dry eye disease (ドライアイ)	IV	intravenous (静脈投与)	POC	proof of concept (概念実証)		
DLBCL	diffuse large B cell lymphoma (びまん性大細胞型B細胞リンパ腫)	iPSC	induced pluripotent stem cells (人工多能性幹細胞)	POI	post-operative ileus (術後イレウス)		
DM	diabetes mellitus (糖尿病)	LBD	Levy Body Dementia (レビー小体病)	PTCL	peripheral T-cell lymphoma (末梢性T細胞リンパ腫)		
DU	duodenal ulcer (十二指腸潰瘍)	LB AML	Low-Blast Acute Myeloid Leukemia (低プラスト急性骨髄性白血病)	R/R	relapsed/refractory (再発/難治)		
Dx	diagnosis (診断)	LSD1	Lysine specific demethylase 1 (リジン特異的脱メチル化酵素1)	RA	rheumatoid arthritis (リウマチ性関節炎)		

